



最近の県内経済情勢

令和 6 年 11 月 7 日

財務省関東財務局

長野財務事務所

※掲載した経済指標等については速報値を含む。

お問い合わせ先
長野財務事務所財務課
電話番号 026-234-5124

1. 総論

【総括判断】

「県内経済は、持ち直している」

項目	前回（6年7月判断）	今回（6年10月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

（注）6年10月判断は、前回6年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、足踏みの状況にある。

【各項目の判断】

項目	前回（6年7月判断）	今回（6年10月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
雇用情勢	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	→
設備投資	6年度は減少見込みとなっている	6年度は減少見込みとなっている	→
企業収益	6年度は増益見込みとなっている	6年度は増益見込みとなっている	→
企業の景況感	「下降」超幅が縮小している	「上昇」超に転じている	↗
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	↗

【先行き】

先行きについては、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、家電大型専門店販売額、乗用車の新車登録届出数は前年を下回っているものの、ドラッグストア販売額、ホームセンター販売額は前年を上回っている。このほか、飲食サービスや宿泊などは緩やかに回復しつつある。

このように個人消費は、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 美術品や物産展の売行きが好調であった一方で、猛暑が続いたことやオリンピック中継による巣ごもり需要があったためか、食料品、服飾雑貨、衣料品は苦戦した。(百貨店・スーパー)
- サンドイッチの販売価格が上昇していることから、生活防衛意識の高まりからか、低価格帯のおにぎりやパンに流れている。(コンビニエンスストア)
- コロナ後の外出機会の増加により、化粧品の売上げが対前年同期比で上昇しているほか、中国や台湾を中心とした外国人観光客の増加に伴い、免税売上げが伸長した。(ドラッグストア)
- 前年同様、猛暑であったことから、扇風機やエアコンなどの季節品が8月以降よく売れた。(ホームセンター)
- 団体客が増加したほか、宴会時間も長くなってきており、コロナ前の状況に戻りつつある。(飲食サービス)
- 国内からの観光客の増加により、宿泊客数が増加していることに加え、宿泊客が施設内のレストランやバーを利用するため、増収となった。(宿泊)

■ 生産活動 「持ち直しつつある」

鉱工業生産指数を業種別にみると、電子部品・デバイス、輸送機械などは下降しているものの、汎用・生産用・業務用機械、食料品、情報通信機械などは上昇しており、生産活動は、持ち直しつつある。

- コロナ禍における巣ごもり需要の反動が続いており、PC関連の海外の半導体部品メーカーからの受注が減少傾向にあることから、対前四半期比で減産となった。(電子部品・デバイス)
- 当社と取引のない中国車が台頭してきたことにより、当社製品の受注が減少しており、それに伴い生産量も減少している。(輸送機械)
- 熊本県において、半導体の製造が盛んであることや老朽化に伴う設備更新などから、当社の圧力計測機器の需要が伸びている。(汎用機械)
- 取引先において、半導体の在庫が余っている状況ではあるものの、当社の半導体検査装置の需要は前四半期と比較して回復している。(情報通信機械)

■ 雇用情勢 「足踏みの状況にある」

有効求人倍率が低下しており、新規求人数は前年を下回るなど、雇用情勢は、足踏みの状況にある。

- ロボットを活用し、製品の品質検査を24時間体制で行うことにより、効率化・省人化を図った。(製造業)
- ベースアップと定期昇給の賃上げに加え、パート社員の時間給も引き上げる等、人材確保にかかる方策を実施した。(小売業)
- 下請企業を含め、慢性的に人手が不足しているため、当社のキャパシティを考慮し、新規受注を控えざるを得ないことがある。(建設)

■ 設備投資 「6年度は減少見込みとなっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」6年7~9月期

法人企業景気予測調査(6年7~9月期調査)で6年度の設備投資計画をみると、製造業は前年比▲13.8%の減少見込み、非製造業は同▲16.1%の減少見込み、全産業では同▲14.1%の減少見込みとなっている。

■ 企業収益 「6年度は増益見込みとなっている」 (全規模) 「法人企業景気予測調査」6年7~9月期

法人企業景気予測調査(6年7~9月期調査)で6年度の経常利益(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)をみると、製造業では前年比22.7%の増益見込み、非製造業では同▲19.4%の減益見込み、全体では同16.4%の増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『上昇』超に転じている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」6年7~9月期

法人企業景気予測調査(6年7~9月期調査)の企業の景況判断BSIをみると、全規模・全産業で「上昇」超に転じている。

先行きについては、7年1~3月期に「下降」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

新設住宅着工戸数は、持家、貸家が前年を下回っているものの、分譲住宅が前年を上回っており、全体として前年を上回っている。

最近の県内経済情勢

資料編

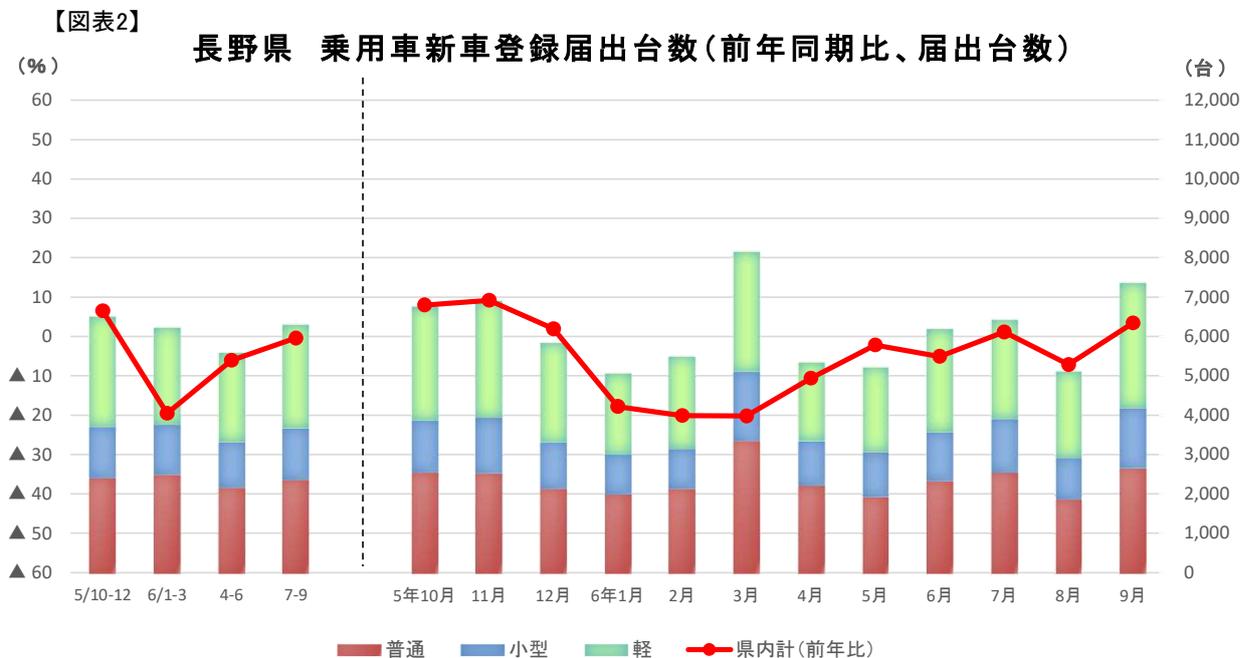
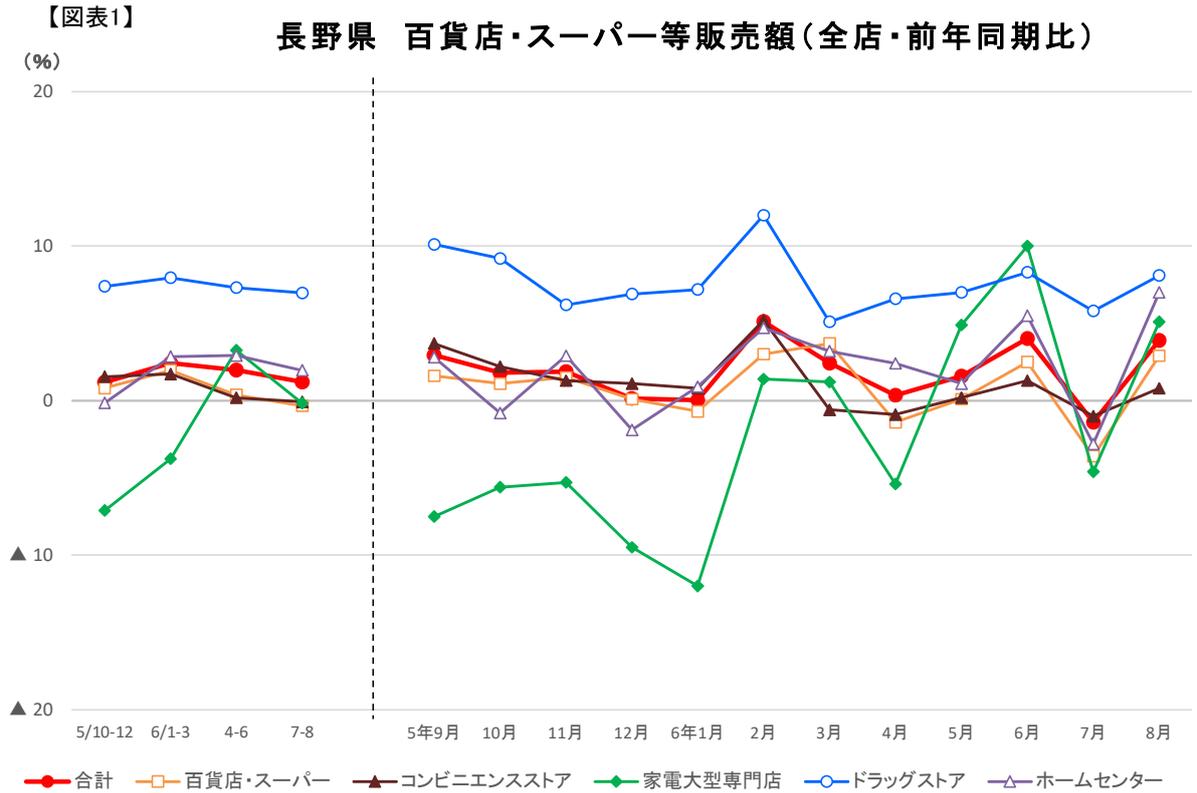
令和 6 年 11 月 7 日

財務省関東財務局

長野財務事務所

1. 個人消費

緩やかに回復しつつある

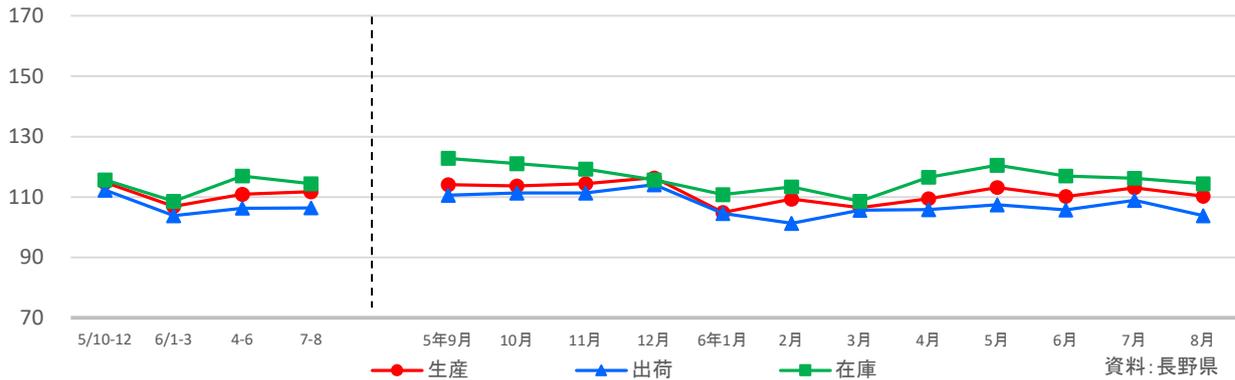


2. 生産活動

持ち直しつつある

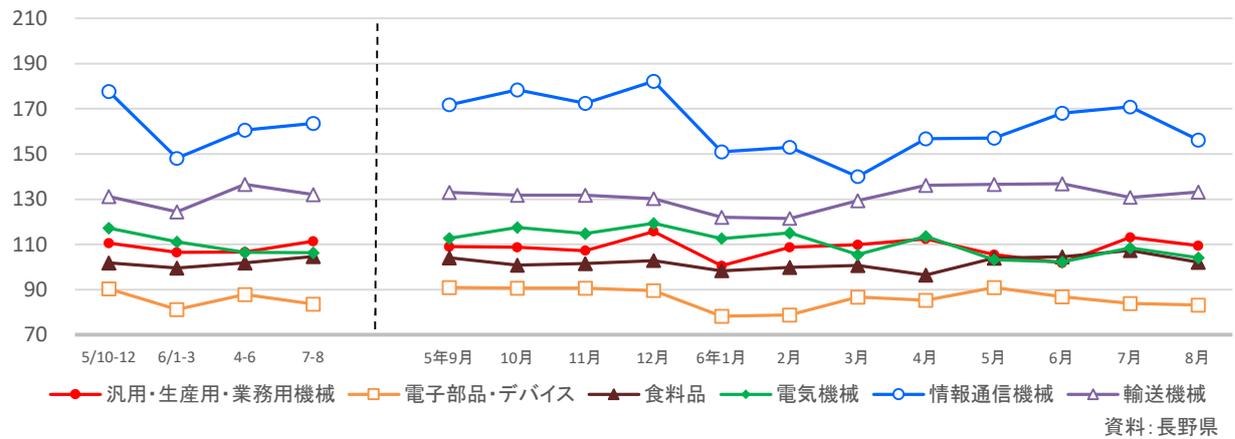
【図表3】

長野県 鉱工業指数(季節調整値・R2=100)



【図表4】

長野県 業種別鉱工業生産指数(季節調整値・R2=100)



3. 雇用情勢

足踏みの状況にある

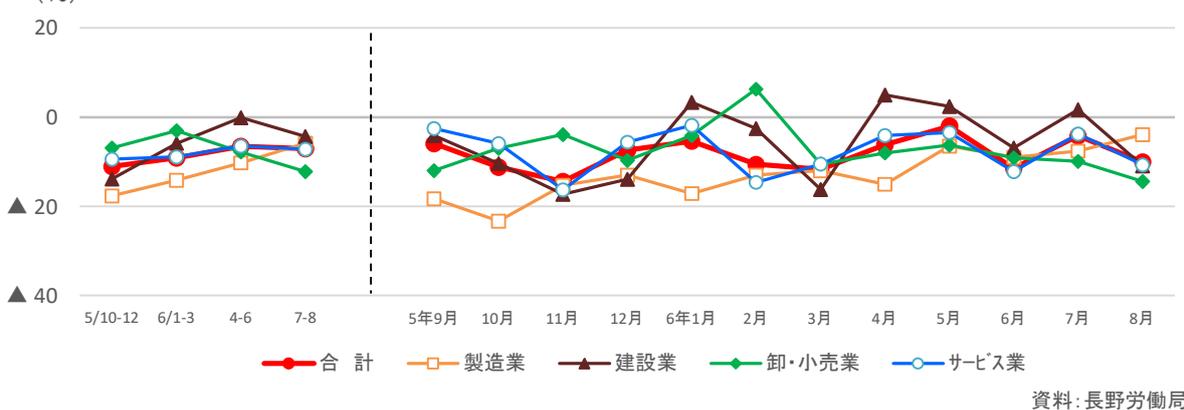
【図表5】

有効求人倍率(季節調整値)



【図表6】

長野県 業種別新規求人数(パートタイムを含む・前年同期比)



4. 企業収益・設備投資

企業収益:6年度は増益見込みとなっている
設備投資:6年度は減少見込みとなっている

【図表7】 企業収益・設備投資 (前年比増減率:%)

	売上高	経常利益		設備投資
		(受取配当金を除く)		
全規模・全産業	7.2 (6.7)	16.4 (16.9)	25.7 (25.9)	▲ 14.1 (▲ 14.8)
大企業	8.2 (8.5)	17.5 (20.4)	25.7 (29.5)	▲ 10.3 (▲ 12.0)
中堅企業	4.4 (0.9)	16.9 (2.9)	36.8 (15.4)	▲ 37.7 (▲ 42.7)
中小企業	0.6 (1.2)	▲ 13.5 (▲ 13.4)	▲ 15.0 (▲ 13.1)	35.8 (43.1)
製造業	9.0 (8.9)	22.7 (21.9)	36.2 (34.6)	▲ 13.8 (▲ 13.5)
非製造業	3.8 (2.4)	▲ 19.4 (▲ 13.6)	▲ 23.8 (▲ 17.4)	▲ 16.1 (▲ 21.1)

(注)1.()書は前回(6年4~6月期)調査結果

2.売上高、経常利益は「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」を除いたもの

資料:長野財務事務所
「法人企業景気予測調査(令和6年7~9月期調査)」

5. 企業の景況感

「上昇」超に転じている

企業の景況判断 B S I
(前期比「上昇」-「下降」社数構成比)

【図表8】 (単位:%ポイント)

	6年4~6月	6年7~9月	6年10~12月	7年1~3月
全規模・全産業	(▲ 6.8)	5.0 (1.5)	5.7 (1.5)	▲ 3.6
大企業	(5.6)	2.6 (2.8)	10.3 (8.3)	5.1
中堅企業	(7.7)	▲ 3.1 (3.8)	18.8 (19.2)	0.0
中小企業	(▲ 18.3)	10.1 (0.0)	▲ 2.9 (▲ 8.5)	▲ 10.1
製造業	(▲ 10.6)	▲ 1.5 (1.5)	6.2 (13.6)	▲ 3.1
非製造業	(▲ 3.0)	10.7 (1.5)	5.3 (▲ 10.4)	▲ 4.0

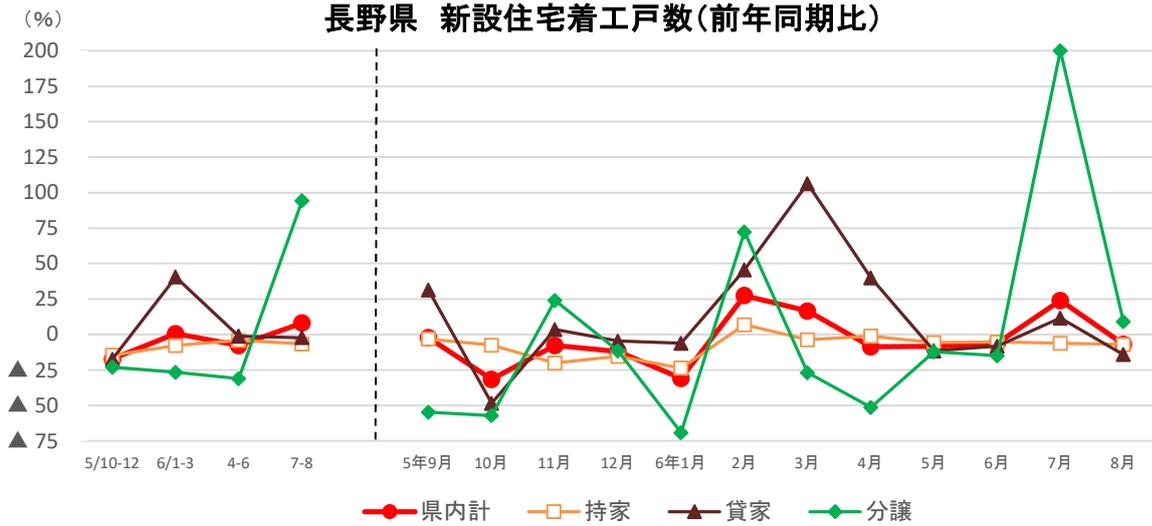
(注)()書は前回(6年4~6月期)調査結果

資料:長野財務事務所
「法人企業景気予測調査(令和6年7~9月期調査)」

6. 住宅建設

前年を上回っている

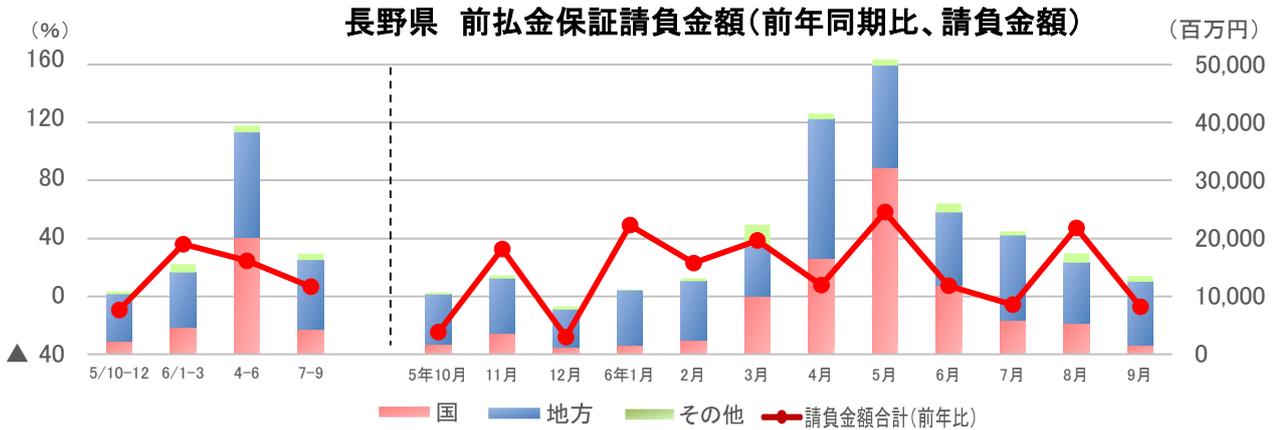
【図表9】



(参考) 公共工事

前年を上回っている

【図表10】



(参考) 倒産

前年を下回っている

【図表11】

